

本県の技術 農水大臣賞

宇宙開発利用大賞 衛星で「霹靂」収穫期判定

宇宙空間を活用した先進的な取り組みを表彰する「宇宙開発利用大賞」(内閣府主催)で、人工衛星が撮影した水田の画像を分析して県産米「青天の霹靂」の収穫時期などを判定する本県のリモートセンシング(遠隔探査)技術が農林水産大臣賞に選ばれた。(永野悠太)

産技センターなど開発

同大賞は内閣府が2年に1度、宇宙産業の発展などに貢献した個人・団体に贈っており本年度が3回目。内閣総理大臣賞が最高賞で、農林水産分野の取り組みを対象とした農林水産大臣賞は本年度創設された。20日に東京都内で表彰式が行われた。

本県の技術は、県産業技術センター農林総合研究所(黒石市)などが中心となって開発し、2016年から実用化している。画像解析の対象は霹靂が栽培される色の違いで個々の水田の収穫時期が分かるマップ(県産業技術センター農林総合研究所提供)



ている津軽地域13市町村の水田約1900畝。

コメは収穫時期が遅れると硬くなり、米粒にひびが入る「胴割れ」も発生しやすくなる。また、収穫が早すぎた場合、収量が不足するため、良食味のコメの生産には適切な時期に収穫することが欠かせない。

同研究所は収穫時期が近づくと稲穂が黄金色になることに着目した。人工衛星

が撮影した水田の画像を解析し、水田を1枚ずつ色分けすることで、個々の水田の収穫時期を判定。県、農協の指導員や農業者がタブレット端末やスマートフォンで画面に画像を表示し、栽培管理に活用している。数値が低い方がうまいコメとされるタンパク質含有率

の判定などにも同様の技術が使われている。同大賞では、画像解析技術が霹靂のブランド化向上に役立っていると評価された。同研究所の境谷栄二・生産環境部長は「タンパク質含有率に関係する肥料の量をマップ上に表示できるようにするなど、生産者が使いやすい技術に改良していきたい」と話した。

平成30年3月23日 東奥日報 掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。